

一般選抜A日程 国語総合

出題分析

1 出題数

大問は3題で構成されており、小問数は22問、解答数は43個となっている。試験時間は60分である。

2 出題形式

大問1が論説文を題材とした読解問題、大問2が主に語彙力を問う知識問題、大問3が小説を題材とした読解問題という出題構成である。大問1と大問3の読解問題では、漢字、文法などの国語知識問題のほか、接続語の空欄補充、内容説明、心情把握や内容合致などが出題されている。解答形式については、漢字問題、抜き出し問題が記述式であるほかは、記号選択式となっており、自分で解答をまとめる記述式の問題は出題されていない。

3 出題傾向

大問1、大問3は、問題文の内容理解が問われている。ただし、大問1、大問3とも難解な出題や紛らわしい選択肢はなく、問題文が正しく読み取れていれば十分正解できる出題内容となっている。また、大問2は、国語の基本的な知識を問う問題で、慣用句、四字熟語、ことわざなどの語彙力を問う問題のほか、文学史の問題が出題されている。

4 難易度

大問1、大問3で取り上げられている文章は難度の高いものではなく、出題も問題文の内容を正しく読み取れていれば確実に答えられるものである。問題数が多いので、時間配分に気をつけ、時間内に最後まで解答できるようにしたい。

受験対策

1. 過去問題を解いて自分の力を見極め、学習計画を立てよう

漢字問題への対応力、ことわざ・慣用句・四字熟語などの言語的知識や文学史の知識、文章の読解力という三つの力が高得点獲得のポイントになる。まずは過去問題を実際に解き、現在の力を確認しよう。そして、それを踏まえて学習の指針を立て、日々の学習計画に落とし込もう。たとえば、漢字問題で6割程度しか得点できないのなら、8割以上得点できるように、漢字練習を毎日の学習に取り入れるのがよいだろう。大問1や大問3の読解問題で得点率が低いのであれば、得点を伸ばすための学習が必要になる(3.参照)。

2. 漢字問題や知識問題は問題集を使って十分な対策しよう

漢字問題は大問1・大問3で各8問出題されている。漢字問題の出題数が多いのが特徴の一つである。特別難しい問題は出題されないため、漢字の頻出問題を集めた問題集に取り組もう。その際、意味のわからない言葉があれば、辞書で調べておこう。それが読解力の根底にもなる。また解きっぱなしにせず、定期的に復習し、知識の定着をはかることも大切だ。大問2への対策として、四字熟語・ことわざ・慣用句についてもその分野の問題を集めた参考書・問題集できちんと準備しておこう。文学史については有名作家の主な著作物について確認しておくとうい。

3. 読解問題は問題演習に日々取り組み、読解する力と解答する力を養おう

大問1と大問3の読解問題で得点を伸ばすには、問題演習を行うことが第一となる。1日や1週間という期間で解く問題数を決めて、日々取り組むようにしたい。特に小説問題は対策をないがしろにしてしまい、作品によって得点が大きく変わるということも起こりやすい。いろいろな作品にあたるなかで、解き方のコツを身につけよう。そのためには、くわしい解説のついた問題集を用いて、読解の仕方や解答の導き出し方をふりかえることが大切だ。しっかりと復習して、得点を伸ばしていこう。